

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470200740	事業の開始年月日	平成13年4月1日
		指定年月日	令和3年4月1日
法人名	医療法人 ゆりの会		
事業所名	グループホーム ゆり苑		
所在地	(〒221-0802) 神奈川県横浜市神奈川区六角橋1-4-3		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和7年1月29日	評価結果 市町村受理日	令和7年3月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様ご本人の意思を尊重し、その人らしい生活をしていただけるよう支援しています。コロナ禍を経て、引き続き感染症対策に努めながらも地域の方との交流や、外出レクリエーション・季節行事・誕生日会等には入居者様に楽しんでいただけるよう力を入れています。料理上手な職員が沢山おり、毎日3食温かくて美味しい食事を提供しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和7年2月21日	評価機関 評価決定日	令和7年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇理念の実践

・理念は、自由の確保・自己決定・自立支援であり、職員で共有し実践に努めている。職員は入居者のしたいことをうまく引き出して、入居者の自己決定の手助けをしている。入居者が第二の家として気楽に過ごすことができるよう、入居者の自由の確保ができるよう見守りをしている。

◇手造りの食事

・入居者への食事の提供は手作りにこだわっている。職員は入居者の嗜好を把握しており、その日の利用者の様子を見て、手持ちの食材から調理をしている。入居者の要望によっては、他の入居者と違う内容の食事を出すこともある。

【事業所の工夫している点】

◇入居者の馴染みの場所の訪問

・入居者は、近隣の出身者が多く、近くの商店街に馴染みの場所を持っている。地域との関係を継続するために、職員は入居者と一緒に美容院や床屋に出かけたり、近くのコンビニで買い物をすることもある。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームゆり苑
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の自由の確保・自己決定・自立援助の3つを柱とした基本理念を意識して入居者様との関係作りに努めています。商店街の中という立地条件を活かし、地域の方とのつながりを感じられるように支援しています。	・理念は職員玄関に掲示していつでも目に付くようにしている。スタッフ会議でケアについて話し合う時に理念の確認をしている。 ・職員は入居者のしたい事をうまく引き出して、理念の自己決定を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りやキャンドルナイト等の行事に参加したり、近隣のコンビニエンスストアでの買い物を行事毎の格好に扮して配達して頂き交流したり、また運営推進会議を通じ、町内会の方や民生員さんとの良い情報交換を行うことができます。	・入居者は近隣の出身者が多く、事業所周辺は馴染みの場所である。 ・キャンドルナイトには、入居者が牛乳パックで蠟燭立てを作り、商店街に飾っている。地域の防災訓練には事業所から管理者が参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の商店街・町内会の防災訓練に積極的に管理者が参加しています。交流の際、認知症の方々の理解や声掛け等支援の方法をお伝えする事で地域の方へ発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を行い、利用者やサービス状況報告しています。構成員の方からは貴重な地域の情報提供をして頂きサービスの向上に活かしています。	・運営推進会は2か月ごとに開催し、民生委員、居宅ケアマネから入居希望の問い合わせ情報を得ている。 ・事業所内での、転倒事故について居宅ケアマネから事故防止のアドバイスを貰っている。議事録を職員に回覧し、共有を図っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時連絡を取り、サービスの状況を伝えたり相談事をしています。直近では1月10日に市町村担当者(保護課)様が来苑され面談実施しております。なお、運営推進会議の報告は毎回行っています。	・区高齢・障害課には推進会議の議事録を送っている。入居者の区分変更には課から調査員が来訪している。 ・横浜市高齢者グループホーム連絡会の会議に出席したり、研修にも参加している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
・	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化検討委員会を通じ、職員には身体拘束となりうる具体的行為について正しく理解するよう取り組んでいます。委員会を年4回開催し、適切な資料に基づいた内部研修を行っています。	・身体拘束についての事業所方針は、重要事項説明書に記載して、入居者・家族に説明している。 ・身体拘束適正化委員会は、全職員をメンバーとして年4回開催しており、議事録で内容を共有している。会議欠席者には管理者から伝える。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を通じ、どんなことが虐待となるのか定期的に資料を用い、学ぶ機会・考える機会をもっています。その結果を現場で活かすよう全職員努めています。委員会は身体拘束適正化検討委員会と一体的に年4回開催実施しております。	・虐待防止の取り組みは研修で行っている。無意識の行動や職員の慣れが虐待に繋がる事を理解している。 ・職員の声掛けの仕方が、入居者がどのように感じるかを話し合っている。職員が気が付いた時には、互いに注意しあっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を用い、学ぶ機会を提供しています。実際、成年後見人制度を活用されている入居者さんもおられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	定期的に面会に来られるご家族には行っています。来ることが出来ないご家族には電話やメール等で定期的に連絡し、何か疑問があればご連絡いただくようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通じ、意見、要望を外部の方へ知っていただく機会とさせていただいています。ご家族の意見要望は常に全職員と共有し、サービス向上に努めることにより運営に反映させています。	・運営推進会議には、家族代表が出席し、意見を述べている。その他、面会時やラインで家族意見を聞く機会を持っている。入居者の体調や食（食事・おやつ等）に関することが多く、意見を参考にしてケアに繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に現場に入り、職員の意見や、提案に耳を傾け運営に反映させています。代表者は医師であり、近隣にはいないため、メールや電話にて意見や提案・相談事を伝えるよう全職員に周知し、提案等を聞く機会を設けています。	・奇数月に職員会議を開催している。日々気になることは日報に記載しており、職員会議で内容の検討を行なっている。 ・業務の平準化のために、実務に合わせてマニュアルの整備を行なっている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告により現状を把握し、改善に努めています。	・給与・賞与は就業規則に規定されているが、処遇の見直しを理事長・社労士・会計士で行なっている。 ・職員の健康診断を、運営法人の医院で行なっており、費用は事業者が負担している。職員には訪問看護師が年1回相談に乗っている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人手不足や、感染症の状況を鑑み、職員全員に法人内外の研修を実施することは現在あまり出来ておりませんが、直近では1月に職員が『認知症介護基礎研修』を受講しています。可能な限り様々な研修を受ける機会の確保を勧めています。	・研修は、区の情報を得て職員に参加させている。 ・認知症基礎研修（Eラーニング）、実践者研修には受講の援助がある。 ・新人のOJTは、ベテラン職員がマニュアルに沿って行っている。	・研修はスポットで参加しているのが現状で、年間計画を立て計画的な研修が行なわれることを期待します。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者からの勧めにより、管理者が横浜高齢者グループホーム連絡会や、徘徊認知症高齢者関係機関連絡会（かめ友ネット）等出席しており、同業者や区役所・警察署・消防署・医療機関・地域関係団体等と交流する機会を頂いております。交流の際に情報交換共有することで、サービスの質を向上させていく取組みに努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族の要望に耳を傾け、ご本人が安心してサービスを受けられるように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始からその後にかけて、ご家族の様々な不安・要望等に耳を傾け、できるだけその要望に応じるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族とよく話し合い、必要としている支援を見極め、必要なら他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事・レクリエーション・季節の行事・誕生日会等を共に行ったり、楽しく会話することにより、良い関係作りに努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に面会されたり、時折一緒に外出したいというご家族のご要望を叶えることによって、ご家族とご本人の絆を大切にしています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣から入所された方は、苑周辺の商店街等に馴染みの方々がいらっしゃるので、散髪や散歩がてら会って交流できるように支援しています。	・入居者の生活歴等は、入所時のアセスメントで把握している。 ・入居者は地元出身者が多く、知り合いの訪問が多くある。 ・行きつけの美容院に行ったり、家族と馴染みの場所で食事をしてくる入居者もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者がどのような個性で利用者同士の関係性がどのようなものかは全職員が把握し情報共有しているので、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も手紙やメールをいただき、その後の様子についてお聞きしそれまで培ってきた関係性を大切にしています。必要な場合は相談・支援を行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各入居者様の希望をお聞きし、介護計画に反映させています。	・帰宅願望が強く、昼間は自宅に帰り、夜戻ってくる入居者がいたが、職員の相手の気持ちを大切にするケアの結果、ホームにずっといたいと変わってきた入居者がいる。 ・食事は利用者の希望を聞き、他の人とは別の物を出すこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・サービス利用の経過を把握し、今後もその人らしい暮らしができるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に現場に従事することにより、一人一人の現状把握ができるようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎回の職員会議や日報等で各入居者様の現状について考え、必要なケアを随時検討しています。また、ご本人・ご家族・医療関係者等と定期的に話し合いをしたり、連絡を取り合い、意見・要望・アイデアを介護計画に反映させています。	・ケアプランの期限の設定は、入居者の認定期間に合わせており、見直しは1年ごとに行なっている。 ・モニタリングはケアプランの見直し時期に、ケアマネージャーと職員で行なっている。家族意見は見直し時に聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	詳細な記録をすることに努め、情報を共有し、ケアの仕方や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに応じた支援を提供することにより柔軟なサービスを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、その資源を有効に使い、本人が暮らしを楽しめるよう支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に沿った適切医療を受けることができるよう支援しています。	・隣接する協力医に夜間を含めて、利用者は必要な時に受診が可能である。法人の看護師が月2回訪問し健康チェックをしている。歯科医の訪問診療が月2回ある。 ・受診は原則家族対応だが、必要に応じて職員も同行している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に必要な情報提供・相談をし、適切な看護を受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師・看護師・医療連携担当者様等各々との良い情報交換や相談を都度行い、本人が安心して治療を受けることができるように努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、本人・家族との話し合いの場を持ち、重度化した場合の当苑の方針についてご理解していただき、それまでは当苑にてできる最善の支援を行っていくことを説明しています。尚、ターミナルケアは行っていない事についての説明・ご理解をいただいています。	・入居時に「重度化した場合の対応指針」を本人と家族に説明し、同意を得ている。 ・家族には、事業所での対応が困難になる前に、入院先を紹介したり、対応可能な施設に申し込むことを勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時の対応方法について定期的に職員会議にて確認を行っています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、入居者様・職員合同の避難訓練を行っています。地域の防災訓練にも参加しています。運営推進会議を通じ、地域への協力体制の意識付けをして頂けるよう努めています。	・BCP（業務継続計画）を作成している。夜間実施訓練を含めて利用者が参加して、年2回避難訓練を行っている。AED、水消火器の使用訓練をしている。 ・備蓄はリスト化（食品は3～5日分）し保管管理をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の育ち、環境・性格等をよく理解したうえで、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っています。	・利用者一人ひとりの誇りを尊重し、その人に合った言葉かけや対応を心がけている。 ・不適切な対応があれば管理者がその場で注意し、職員同士でもお互い対応が良かったか等を確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由時間はそれぞれがお好きなように過ごすようにしていただいています。自己決定のできない方や、一人で過ごすことに不安や危険が生じる可能性のある方は常に職員の見守りができる場所で過ごしていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴時間など一定の決まり事以外は各自思い思いに過ごしていただくことで、其々ご本人の希望にそって支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段からその方の趣味を考慮し、ご本人様と話し合いながら支援しています。ご自分での選択が難しい時にはご家族に相談したり、ご本人が入所時にお持ちになった衣類を観察しお似合いになる衣類購入等を行うようにしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食手作りの食事を提供し、職員も必ず同席し、同じ物を食し、できる方には食事の準備(もやしの根取り等)や食後の後片付け(お皿拭き等)のお手伝いをご一緒に行っていただいています。	・調理の専任職員が利用者の嗜好や食習慣に配慮して調理しており、利用者はできる範囲で下膳や食器拭きを手伝っている。 ・食事が楽しみなものとなるよう職員も同席し、会話を楽しみながら食事をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は職員会議等で確認し合い、栄養バランスを考え、各入居者様に適切な量の食事を提供しています。水分は定時に摂取していただいておりますが、必要時は定時以外の時間にも提供しています。特に摂取が難しい方にはご本人が好きな飲みものを提供する等の支援も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアは行っています。ご自分では難しい方は職員が援助しています。必要であれば、訪問歯科医に連絡相談し、個々に応じたケアを実践しております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日の記録を参考に職員会議にて各入居者様に応じた排泄支援を行っています。現在リハビリパンツや失禁パンツ、軽い尿漏れ用パット等を使用されている方がおられます。	・排泄表を活用し、利用者のできることを尊重しながら、声掛け・誘導等をして、排泄の自立に向けた支援を行なっている。 ・トイレ誘導は小さな声でさりげなく声かけし、失敗した場合も他の利用者が気づく前に手早く対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便記録をおこない、職員間で申し送りを行っています。食物繊維が多く含まれている食材をふんだんに使った食事や、便秘がちの方には乳酸菌飲料の提供も行っています。ラジオ体操等の運動も毎日おこなっています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっており、各入居者様の好きな曜日、時間での入浴は行っていません。それでも入浴日を覚えてくださっている方はその日を楽しみにしてくださっています。入浴日以外の日には毎日全身整容(清拭)を行っています。	・入浴日を決めて、利用者の健康状況を見ながら、全員が週2回の入浴ができるように支援している。 ・入浴剤で温泉気分を味わい、季節の柚子湯、菖蒲湯、職員との会話を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様に合わせ、ご自分で休息をとれる方はご自分で、認識することが難しい方は職員が適時声かけし休息していただいたり、眠気が観察された時に声かけし、入床を促すように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援に関しては定期的に職員会議で検討され、一人一人に合った服薬介助を行っています。新たに内服薬が追加された時は副作用がでないか特に注意して様子観察し、記録・申し送りを行い、副作用のような症状が出た時にはすぐに医師または薬剤師に相談するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会や季節の行事を行っています。誕生日にはご本人の食べたいものを伺い、提供するようにしています。日頃の生活の中では食事の後片付けや洗濯物たたみ等簡単な作業を行っています。歌がお好きな方が多いのでカラオケを行って気分転換していただくようにも支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出は自由に行っていたが、日常では近所へ散髪や買い物に職員と行ったり、年に数回は行事として普段あまり行くことのできない場所へ出かけられるよう支援しています。	・天候や利用者の体調に配慮し、車椅子の利用者も一緒に近所の散歩、商店街への買い物、散髪等、職員が同行して、外に出る機会をできるだけ設けている。 ・個別の外出は家族の協力を得て、外食や買い物をしている	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布を持ち、お金を所持されている方もいらっしゃいます。何か欲しいものがある時は希望の物を買うことができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙のやりとりができるよう支援しています。コロナ禍以降オンライン面会も随時できるようにしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場はできるだけ季節感を出すようにしたり、行事の写真を張ったり、レクリエーションで入居者様に作っていただいた作品を飾るようにしています。温度等は入居者様が快適に過ごせるよう温度・湿度計を設置し職員が常に調整しています。	・温湿度、照明や換気に配慮し、障子越しに、ほどよい明るさとなっているリビングは、居心地の良い空間になっている。 ・利用者作成の四季折々の塗り絵や行事の写真を飾り、リビングを居心地を良いものにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の場では定期的に席替えを行い各入居者様が居心地の良い環境を作るようにしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置くものは入所時にご本人様がそれまで使われてきた物を置いていただくようにし、安心して生活していただけるようにしております。	・エアコン、ベッド、防災カーテン、クローゼットが備え付けになっている。 ・居室には使い慣れた家具や仏壇などを置き、家族の写真や趣味の物を飾り、自分らしい部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室等には表示をつけ分かりやすいように工夫しています。洗面所には名前を付けた個々の手拭きタオルを設置したり、ご自分で口腔ケアできる方は口腔ケアセットを見え易い位置に置いておくようにしています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホームゆり苑

作成日

令和 7年 2月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		研修はスポットで参加しているのが現状で、年間計画を立て計画的な研修を行うよう努める。	人手不足によりスポットでの研修参加が現状だが、今後はより多くの職員が外部研修を受講出来るよう努める。	対面での外部研修やZOOM等オンラインでの受講が可能な外部研修への参加を積極的に取り入れた年間研修計画を立てる。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。